



かるがも



第52号

<http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo>

2021年〈令和3年〉6月

新年度を迎えて、コロナはいつまで

病院長 星岡 明

昨年度は、まさにコロナに振り回された1年でした。新年度となっても、その状況にかわりはありません。皆様も、感染予防対策、コロナ・コロナ疑い患者対応、ワクチン接種等でご苦労されていることでしょうか。当院でも、がんセンターに開設したコロナ臨時医療施設に多くの看護師を派遣しており、そのために1病棟を休止中です。この「かるがも」がお手元に届くころには、第4波は収束しているでしょうか、ワクチン接種はすすんでいるでしょうか、本当にオリンピックを開催するのでしょうか。感染対策とワクチン接種がすすみ、多くの手術や検査入院が予定されている夏休みまでに、病棟が再開できることを期待しています。

当院の診療体制は、専門領域に比べ、救急部門、周産期部門の体制整備が遅れておりました。そこで、この4月、集中治療科、新生児・未熟児科、小児救急総合診療科に経験ある中堅医師を迎え、重症小児、新生児・未熟児、救急患者の受入れ体制を強化しました。小児救急総合診療科では、小児外科と協力しながら、上

部・下部の内視鏡検査、炎症性腸疾患等の診療も行っております。また、小児科専門医を取得したのち、循環器、神経、感染、内分泌等、サブスペシャルティー領域の専門研修をしたいという若手医師も増えました。患者さんにご家族によりそった丁寧な診療をいたしますので、困った患者さんがいらっしゃいましたら、どうぞご相談、ご紹介ください。

今年度も職員が一丸となって感染対策を確実にに行い、多くの子ども達に最高レベルの医療を提供してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

令和3年6月



(左から、皆川医療局長、浮ヶ谷看護局長、星岡病院長、中島副病院長、伏居事務局長)

2021年度診療体制

病院長 星岡 明

副病院長 中島 弘道

医療局長 皆川 真規

診療部長

心臓血管外科	青木 満
耳鼻咽喉科	仲野 敦子
感染症科	星野 直
血液・腫瘍科	角田 治美

外科系

小児外科	齋藤 武	岩井 潤 齋藤江里子 秦 佳孝 佐永田友季子
整形外科	柿崎 潤	及川 泰宏 安部 玲 山中 理菜 中川 知郎 布目 愛紗
脳神経外科	沼田 理	安藤 亮
形成外科	鈴木 啓之	石垣 達也 白井さや香
眼科	平野 香織	齋藤麻美子
耳鼻咽喉科	有本友季子	外池百合恵
泌尿器科	本間 澄恵	松野 大輔 栗原 啓輔
歯科	渡邊 俊英	
心臓血管外科	萩野 生男	腰山 宏 伊藤 貴弘 熊江 優 西織 浩信
麻酔科	原 真理子	松尾 史郎 関 修平 内野慶次郎 清家 拓海
集中治療科	杉村 洋子	粒良 昌弘
病理診断科	成毛 有紀	

内科系

内分泌科	數川 逸郎	木原 牧子 森 香子 山本 紘子 阿部茉衣子
感染症科	星野 直 (兼務)	長澤 耕男 山本 翔太 草野 泰造 渡邊泰二郎 原木 悠
アレルギー 膠原病科	山出 晶子	井上祐三朗 光永可奈子
代謝科	村山 圭	松永 綾子 市本 景子 松橋 徹郎 田鹿 牧子
循環器内科	東 浩二	青墳 裕之 石井 徹子 佐藤 一寿 奥主健太郎 川合 玲子 山形 知慧 水野 雄太
血液・腫瘍科	落合 秀匡	種山 雄一 安藤久美子 宮崎 文平
精神科	安藤 咲穂	富田 陽子 高山 智宏
神経内科	小俣 卓	青山 弘美 村上 淑 藤本 遼 吉井 祥子 山口 亮
腎臓科	久野 正貴	西村 竜哉 飯田 貴也
新生児・未熟児科	鶴岡 智子	大塚 直哉 海老原知博 木ノ内よしな 水越 曜子
小児救急 総合診療科	夏井 款子	小川 優一 伊藤 貴伸 酒井 敦 高居 宏武
遺伝科	朽方 豊夢	

新任医師紹介



麻酔科 医長
松尾 史郎

皆様はじめまして。2021年4月に赴任致しました松尾史郎です。横浜市立大学麻酔科学教室に所属しております。小児専門病院への赴任は久しぶりです。可愛い子供たちに毎日会える喜びと共に、担う責任の重さに改めて気を引き締めています。

スタッフ間の密なコミュニケーションは、患者であることも達と、それを支える家族にとって必ずプラスになると信じています。どうかぜひ、些細なことでもお気づきの点は何でもお声がけ下さい。しっかりと自省し、より良い医療を提供できるよう努めて参ります。どうか宜しくお願い致します。



集中治療科 医長
粒良 昌弘

4月より集中治療科に赴任しました粒良 昌弘(つぶら まさひろ)と申します。2013年度に新生児科に所属して以来の当院での勤務となります。千葉県茂原市の出身で、就学前には当院に短期で入院した経験もあり、当院で働けることをとても嬉しく感じています。

専門は小児救急・集中治療、小児循環器で、県内の小児周産期災害ネットワークにも携わっております。主に小児集中治療室での勤務となりますが、各診療科・スタッフの皆様と力を合わせ、重症な子ども達をサポートできるよう尽力していきます。よろしくお願いたします。

薬剤部紹介

薬剤部では、「その子らしくその子のために」という当院の基本理念のもと、小児専門医療施設の薬剤師として安心安全な医療の提供を支えることを目標としています。

●小児専門医療施設の薬剤部として

新規医薬品開発や適応取得の治験に対応するため、薬剤師CRCを育成し配置しています。また難治性疾患の治療ではしばしば必要となる薬の適応外使用について、医師、薬剤師からなる審査部門が設置されており、薬剤師は安全性の確認や、説明文書の内容など、客観的な視点で審査を行うとともに、薬剤部内に情報共有をして、安全に薬物療法を行うための支援体制を取っています。

●その子の治療のために

発達過程に合わせてその子ごとに適した剤形で調剤する必要がありますが、小児用の薬がない場合、成人用の製剤を壊すことになり、飲みやすさ、飲ませやすさ、味などが悪くなりしばしば苦痛を伴います。薬剤師は安定性の確認と調剤の工夫や飲ませ方など、患児や保護者に寄り添って行っています。

●安心安全な医療の提供

医療安全を第一に掲げて4年になりますが、ハイリスク病棟への薬剤師常駐、疑義紹介の徹底、プレアボイドのための積極的介入、チームによる多職種連携などにより、インシデント報告における薬関連のインシデントの割合は約4割減り、レベル3b以上は0件となっています。

●薬剤師の専門性の育成

現在薬剤師の職種でも多くの認定制度がありますが、薬剤部では専門的立場から医療チームの一員として参画できるように認定薬剤師の取得を推奨しています。薬剤師は多くのチーム活動に参画しており、昨年より在宅医療を支援するチームでの活動も開始しています。





診療科紹介
耳鼻咽喉科

部長
有本 友季子



耳鼻咽喉科は、月・水・金曜日に外来診療を、火・木曜日に手術を行っております。

耳鼻咽喉科領域の様々な内容でご紹介頂きますが、中でも多いのは、小児のアデノイド肥大、口蓋扁桃肥大に伴う上気道狭窄による睡眠時呼吸障害(いびき、無呼吸)についてで、十分な手術適応を認める症例では手術の効果を顕著に認めることから、積極的に手術を行っております。当院では麻酔科医も小児麻酔に精通しており、1歳代からでも適応を認める症例では手術を行っております。

当科では、小児難聴医療にも力を入れております。新生児聴覚スクリーニングの助成事業も千葉県で開始さ

れ、益々精査が必要な児が増えることが予想されます。当科はスクリーニング後の精密医療機関となっており、難聴児の早期発見、対応、聴覚管理を行っております。小児の場合は、補聴等の医療的な対応だけでは不十分で、療育指導といった教育的側面も重要であるため、県内の聾学校や難聴児通園施設とも連携をとり対応しております。難聴診断となった場合には、難聴遺伝子解析を含め、難聴原因検索も行っております。原因が判明することで、将来像や合併症の有無が予想できる等のメリットがみられます。

当院には様々な専門科があり、当科も他科と連携して診療にあたっております。例えば頸部膿瘍症例では、抗菌薬治療等の薬物治療は小児内科系医師が主導で、膿瘍切開等の外科的治療については当科が担当させて頂いております。また当院には、様々な合併症を有するお子様も多く、複数科や様々な医療スタッフと連携して診療にあたり、皆で困難を乗り越えられた時には大変さも吹き飛び充実感を覚えます。今後とも宜しくお願い申し上げます。



診療科紹介
循環器内科

部長
東 浩二



当科は先天性心疾患、心筋疾患、不整脈、川崎病、他の全身性疾患に伴う循環器系の異常などすべての小児心疾患を対象に、「患者様に最良の医療を提供する」をモットーに循環器内科一丸となって日々診療にあたっています。

特に先天性心疾患に対する診療は開院当初より注力しています。当科とともに心臓血管外科、新生児・未熟児科、集中治療科など関係各科と密に連携しながら診療しており、県内随一の小児心臓手術件数と国内トップクラスの治療実績を挙げております。

近年カテーテル治療の進歩は目覚ましく、小児においても様々な治療がなされるようになってきました。外科手

術に比べて侵襲が少なく胸部に手術痕が残らないなど多くのメリットがあります。特に心房中隔欠損症や動脈管開存症に対するカテーテル治療では新たな使用デバイスの開発によって適応症例も拡大しています。当院は県内唯一の小児カテーテル治療認定施設であり、2020年には年間100件を超える数多くのカテーテル治療を施行しています。

外来診療については一般外来に加えて、胎児心エコー外来、不整脈・ペースメーカー外来、川崎病外来の専門外来を開設し、より専門的で細やかな診療ができる体制を整えております。

また、胎児周産期医療、成人移行期医療、遠隔地医療など一人一人の患者様が抱える様々な問題を解決していく為に千葉大学医学部附属病院をはじめ多くの基幹病院の先生方と頻りにネットカンファレンスを行い、病院や職種の垣根を超えた連携を目指しています。

日常診療の中で何か心配事がある症例や少しでも気になる症例が御座いましたら、遠慮なくご相談頂ければと思いますので、今後ともよろしくお願ひいたします。